

平成 23 年 6 月 6 日現在

機関番号：34316  
 研究種目：基盤研究(B)  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20402028  
 研究課題名(和文) 移住労働者の人権擁護システムの構築を目指す研究 - スリランカの事例を手がかりに  
 研究課題名(英文) Study of foreign migrant workers in search of their human rights protection system; chiefly upon the cases of Sri Lankan migrant workers  
 研究代表者  
 中村 尚司(NAKAMURA HISASHI)  
 龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー  
 研究者番号：50172424

## 研究成果の概要(和文):

スリランカを主要な調査地とし、海外移住労働者に関して送り出し国と受け入れ国における双方の当事者、関係機関、国際機関などを中心に労働の現場を訪問し、面接中心の参加型フィールド調査を行ない、国際的な人権擁護という視点から改善策を提案した。また、本研究の成果を踏まえ、「外国人政策懇話会」を開設して、移住労働研究を継続するとともに、毎月第一月曜日に、龍谷大学の大阪梅田キャンパスにて、公開の研究発表会を開催している。

## 研究成果の概要(英文):

The present research has been carried out both in sending countries of migrant laborers like Sri Lanka, Indonesia and Philippines and recipient countries like Gulf Cooperation Council while chiefly visiting and making interviews at workplaces, employers associations, related govt. offices, concerned human rights activists, International Organizations like ILO, IOM, UN Human Rights Council and so on. As a result of the project, the foreign policy study team was formed to continue the policy oriented research and conduct a monthly public forum at the Osaka Umeda Campus of Ryukoku University.

## 交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,200,327	960,000	4,160,327
2009年度	5,056,074	1,516,822	6,572,896
2010年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
年度			
総計	11,256,401	3,376,822	14,633,223

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：経済政策

キーワード：海外移住労働 国際人権 外国人政策 南アジア アラブ産油国

## 1. 研究開始当初の背景

欧米やアラブ諸国への人的移動の急増によって、国際労働力移動や移民研究が急速に

盛んになってきた。しかし、対象地域が欧米中心であること、学術研究であるがゆえに人的移動に伴う人権侵害などの解決策に

まで踏み込んでいない、という問題点があった。移民に関する統計の多くも OECD などの欧米が中心で、1000 万人の移住労働者が就労し、人権侵害が深刻なアラブ諸国について、学術調査や研究よりも国連諸機関の人権報告が中心である。

## 2. 研究の目的

経済のグローバル化に伴う移住労働者の増加は、送り出し、受け入れ双方において、強制労働、収奪、虐待、人身売買などの重大な人権侵害を引き起こしており、その被害者の多くは女性である。従来の移民研究では、移民が直面する人権侵害問題について、学術的に取り組もうという姿勢が薄かった。

これらの既存の研究の不十分な点にこたえるべく、本研究では、参加型研究という立場から移住労働者への人権侵害を研究テーマに取り上げ、問題の指摘にとどまらず、その改善策の提示を目指す。

具体的目標は、スリランカ等を事例に送り出し側の問題を明らかにする、移住労働者の人権問題対策の事例として、スリランカ人の主要な渡航先であるレバノン、2003 年に雇用許可制を導入した韓国において、改革の効果と課題を探る、日本における移住労働者への搾取、虐待、人身売買など人権侵害の実態を調べ、現行の入管行政、医療・教育、技能実習制度の問題点を検討し、移住労働者の人権やアイデンティティを尊重した受け入れシステムの提言、である。

## 3. 研究の方法

送り出し国と受け入れ国における双方の当事者、関係機関、国際機関などを中心に労働の現場を訪問し、面接中心の参加型フィールド調査を行った。

送り出し国の調査として、スリランカを主な調査地として、その他、インドネシア、フィリピンでの調査を実施した。受け入れ国の調査としては、雇用許可制を導入した韓国、スリランカ人の主な移住先であるキプロス、レバノン、インドネシア人移住の多いオランダ、その他比較調査先としてドイツ、イタリア、フランスでも調査を実施した。また、国際連合人権理事会（スイス）において国際機関の移住労働政策等に関する意見交換を行った。

日本国内の事例調査としては、主に滋賀県において、受け入れ側の意識等に関する面接調査を市、雇用者、外国人学校などで実施した（長浜市）。また、フィリピン人労働者対象の質問票調査と面接調査（彦根市、草津市、大津市など）を実施した。

その他、広く情報交換や意見交換を行うべく、公開研究会を実施した。法務省職員、外国人支援団体職員、研究者などを招聘し、実

務者や研究者ともに改善策を検討する機会を設けた。

## 4. 研究成果

それぞれの現地調査について報告論文をまとめるとともに、最終年度にフィリピン大学第三世界研究センターにて国際シンポジウムを開催した。本報告はフィリピン大学第三世界研究センターの紀要に掲載される（英文、現在校正中）。

初年度より労働者の実態調査を進めている滋賀県での調査結果の分析結果を公表し、結果は京都新聞に掲載された。（2010年度第2回研究会）

ジュネーブの国際連合人権理事会を訪問。国際機関の移住労働政策等に関する意見交換を行い、結果を公開研究会「国際機関とジュネーブ州政府の外国人政策」として報告した（2010年度第7回研究会）。

これらの研究成果を書籍にまとめるべく進めている。

また、本研究の成果を踏まえ、「外国人政策懇話会」を開設して、移住労働研究を継続するとともに、毎月第一月曜日に、龍谷大学の大阪梅田キャンパスにて、公開の研究発表会を開催している。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 24 件）

田中宏、「外国人の生活保護受給権、その前後左右」、『賃金と社会保障』、査読なし、1534 巻、2011 年、4-10。

中村尚司、「ジュネーブで学んだ外国人政策」、『国際人権ひろば』、査読なし、94 巻、2010 年、4-5。

田中宏、「疎外の社会か、共生の社会か」、『世界』、査読なし、803 巻、2010 年、36-44。

Carlos, M.R.D. and Sato, Chizuko, "The Multi-step Migration of Nurses: The Case of Filipinos in the United Kingdom"、『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』、査読なし、12 巻、2010 年、5-31。

田中宏、「在日外国人と国際人権規準の接点」、『国際人権』、査読なし、20 号、2009 年、8-12。

嶋田ミカ、「インドネシア人看護・介護労働者の受入に伴う課題：就労者の側に焦点をあてて」、『龍谷大学経済学論集』、査読あり、49-1、2009 年、255-264。

安里和晃、「タイにおける医療をめぐる人の国際移動」、『龍谷大学経済学論集』、査読あり、49-1、2009 年、319-331。

安里和晃、「経済連携協定と外国人看護師・介護福祉士の受け入れ」、『研究紀要』世界人権問題研究センター、査読なし、

2009年、219-239。

安里和晃、「ケアの確保をめぐる引き起こされる国際移動 移動する人々は多様性の一部か」、『現代思想』 査読なし、37-2、2009年、91-105。

田中宏、「外国人学校の抱える現状と日本社会の課題」、『解放教育』 査読なし、38-12、2008年、24-31。

嶋田ミカ、「海外に向かうインドネシア女性 出稼ぎ労働の現状と課題(7回連載)」、『シルバー新報』(環境新聞社) 820-827号、2008年。

嶋田ミカ、「インドネシア女性の海外出稼ぎ労働 増加の社会的背景と労働実態」、『看護展望』(メジカルフレンド社) 査読なし、33-12、2008年、41-46。

[学会発表](計25件)

国際シンポジウム “Problems and Prospects of Asian Migrants The Cases of Japan, the Philippines, Indonesia and Sri Lanka”

中村尚司 “Human Rights Issues of Sri Lankan Migrant Workers”

田中宏 “The Realities of Japan as a Host Country - The Case of the Ethnic Korean Residents (Zainichi Koreans)”

MRDカルロス “Filipino Residents and the Global Economic Recession in Japan: The Cases of Shiga and Chiba Prefectures”

嶋田ミカ “Human Rights Issues of Indonesian Women Migrants: Case Study in Central Java”

2011年3月2日、University of the Philippines (フィリピン、ケソン市)

MRDカルロス “Filipino Careworkers in Ageing Japan: Trends, Trajectories and Policies”、APPAM International Conference “Migration: A World in Motion” 2010年2月19日(オランダ、マーストリヒト)

MRDカルロス「フィリピン人看護学生と看護師の海外就労先選択行動：受け入れ国としての日本へのインプリケーション」日本国際文化学会大会、2009年7月4日(佐賀大学)

安里和晃 “Japanese Experience in Elder Care: A Collaborative Research Report” 2009 Mansfield Conference, Methuselah’s Challenge: Ageing in Asia and America、2009年9月24日 University of Montana(アメリカ)

中村尚司・嶋田ミカ、“Does the migration alleviate poverty? ~ The cases of Sri Lankan Women ~”、Workshop on Human Security and Migration、2008年9月2日、Pretoria University (南アフリカ)

MRDカルロス “Foreign Workers in the Elderly Care Sector: The Cases of Japan and Singapore” Workshop on Human Security and Migration、2008年9月2日、Pretoria University (南アフリカ)

田中宏、「戦後日本の外国人政策を検証する イミグレーションとインテグレーションの視点から」、International Seminar on Migration, Human Security and Immigration Policy、2008年11月22日、(東京外国語大学)

安里和晃、「人の国際移動の女性化を再考する」、国際日本文化研究センター公開シンポジウム「アジアの女性はどこへ行く」、2009年1月、(国際日本文化研究センター)

[図書](計11件)

佐藤誠編『越境するケア労働：日本・アジア・アフリカ』総頁252。

中村尚司「西アジアにおけるスリランカ人家事ケア労働者」81-91、

MRDカルロス「日本におけるフィリピン人介護労働者の3つの経路」、179-201、日本経済評論社、2010年。

駒井洋(監修) 首藤もと子(編著)『東南・南アジアのディアスポラ』叢書グローバルディアスポラ2、総頁292。

嶋田ミカ「スリランカ女性の海外出稼ぎ労働 聞き取り調査から貧困緩和効果を考える」262-282、明石書店、2010年。

五十嵐泰正編『越境する労働と移民 労働再審2』、総頁313。

安里和晃「第2章 E P A 看護師候補者に関する労働条件と二重労働市場形成」大月書店、2010年、79-113。

奥島美夏編『日本のインドネシア人社会』、総頁346。

安里和晃「東アジアで就労する家事・介護労働者」明石書店、2008年、270-288。

[産業財産権] なし

[その他]

本研究の成果を踏まえ、「外国人政策懇話会」を開設して、研究を継続するとともに、毎月第一月曜日に、龍谷大学の大阪梅田キャンパスにて、公開の研究発表会を開催している。

滋賀県におけるフィリピン人労働者対象の質問票調査結果は京都新聞に掲載された。(2010年5月22日)

<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P20100522000022&genre=C4&area=S00>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

中村 尚司 (NAKAMURA HISASHI )  
龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー  
研究者番号：50172424

(2)研究分担者

M・R・D カルロス (M・R・D CARLOS )  
龍谷大学・国際文化学部・准教授  
研究者番号：90335414  
嶋田 ミカ (SHIMADA MIKA )  
龍谷大学・社会科学研究所・研究員  
研究者番号：30454531  
田中 宏 (TANAKA HIROSHI )  
龍谷大学・社会科学研究所・研究員  
研究者番号：20086218  
酒井 啓子 (SAKAI KEIKO )  
東京外国語大学・地域文化研究所・教授  
研究者番号：40401442  
安里 和晃 (ASATO WAKOU )  
京都大学大学院・文学研究科・特定准教授  
研究者番号：00465957

(3)連携研究者

なし